

第30回 山形市子ども・子育て会議 議事録

日 時：令和7年9月1日（月）午後2時00分～午後3時30分

場 所：山形市役所11階 1101会議室

I 出席者

- | | | | | |
|-----------|--|---------|---------|---------|
| 1 委員（20名） | 牧野 徹委員 | 在原 智委員 | 渡邊さおり委員 | 前田浩一委員 |
| | 大桃伸一委員 | 沼澤 聡委員 | 佐藤睦子委員 | 本島優子委員 |
| | 大沼美鈴委員 | 野口比呂美委員 | 海和伸吉委員 | 原田久雄委員 |
| | 佐藤一彦委員 | 深瀬豊子委員 | 高橋公夫委員 | 山川美江子委員 |
| | 今野厚志委員 | 宮舘照彦委員 | 中井伸一委員 | 山口範夫委員 |
| 2 事務局 | 庄子こども未来部長、奥山こども未来課長、五十鈴川指導監査室長、菅江保育育成課長、丹野こども家庭支援課長、多田こども未来課長補佐、那須こども政策係長、今野主査 | | | |

II 傍聴者

- | | |
|---------|----|
| 1 一般傍聴者 | 0名 |
| 2 報道機関 | 0名 |

III 会 議

- 1 開 会
- 2 こども未来部長挨拶
- 3 協議

（1）教育・保育施設の利用定員の設定等について…【資料1】【参考資料】

資料1及び参考資料に沿って説明。

<主な意見、質疑応答等>

議長	ただいまの説明について、質問や意見等があればお願いします。
委員	山形市こども計画は、需給バランスを総合的に考えて策定したはずである。おそらく方向性としては、既存の園は各園とも利用定員を下げてくることになり、総量的に供給量はおのずと減ってくる。一方で、今回の様に3号認定を新設するのは、流れと矛盾するのではないか。新規増設も含め、総合的に方向性を検討して欲しい。
事務局	障がいを持っているこどもが年々増えてきており、山形市こども計画においてもインクルージョンの推進を掲げている。全てのこどもが安心して過ごせる社会づくりを目指し、今回の新設については、児童発達支援事業をはじめとした社会福祉施設を併設し、交流を行う施設である。多様性を受け入れる心を育てる保育を行う予定であるため、新規開設を認めたいと考えている。
委員	インクルーシブの方向性は良いが、総合的な山形市全体のこども

委員

計画の中でインクルーシブを考えた場合には、こども未来部だけの話ではなく、障がい福祉の部分を含めた総合的なインクルーシブを総量として考えていただきたい。

医療の視点からみれば、新しい園は大賛成である。

疑問に思っているのは、供給過多の部分であるが、それは10年前からわかっていたことである。需給バランスは何に基づいて出しているのか。山形市のこどもの減少率に基づいて、この水準を出しているのか。供給過多の状況は、見ていると全然減っていない。待機児童が出ることばかりを考えて、その先を考えていないからこうなるのではないか。供給過多の部分を、どこで吸収していくつもりなのか。保育士の問題やスペースの問題は、どう考えているのか。

事務局

量の見込みについては、こどもの数が減るということで、年々減らしてきている。供給量については、市立保育所において来年以降、(仮称)西部保育所整備に向けて児童数を減らしていく考えている。

委員

市立保育所で吸収できると今でも考えているのか。スピードも問題である。こどもの減るスピードに対して、あまりに悠長ではないか。働いている人に不安を覚えさせる。

委員

競争原理からして、新設は選択肢を増やすこととして良いことだと思う。また、供給のバランスをとるのであれば、基準を上げて、今まで以上に質の高い幼稚園、保育園にしていけば、ついていけない園は自ら撤退するのもやむを得ないと思う。

委員

インクルーシブな保育ということは、保護者としては大賛成である。兄弟で、障がいがある子と、障がいがない子を持つ保護者からすると、違う保育所に通わせるのは大きな負担であり、一緒に園に通わせられれば安心である。また、障がいがなくとも、障がいを持つこどもたちと一緒に過ごすのは良いことで、世の中に出れば色々な方がいて、こどもの頃からそういうことに触れて過ごすのは凄く良いと思う。

さらに、需要と供給のバランスがずっと同じなのは何故なのか。需要と供給が少しずつ近づいていかないと、山形市全体のことを考えると今後厳しいのではないか。しかし一方では、供給に少し余裕がないと、こどもを預けて働いていけるのか、兄弟を同じところに通わせられるのか不安である。

委員

今まで保育園の需要と供給に関しては分からなかった。幼稚園に関しては、定員は完全に割れている状態である。年長・年中は2クラスだが、年少は1クラスしかない。

インクルーシブ保育については、毎年1人は落ち着きのないこどもがいる。そうすると、その子に対して1人先生を付けないといけない。そうすると先生の人数的問題も出てくると思う。

議長

急速に少子化が進んでいる中で、小中学校の統廃合をしているとこ

委員

ろもある。それには、色んなメリット・デメリットがあると思う。

幼稚園の経営難は、大変な問題だと感じる。小学校の方でも、幼保小の連携は意識してやろうとしている。小学校との一番の違いは、人がいなければ経営が成り立たないことである。そういう点はシビアだと感じている。インクルーシブについては、小学校の特別支援学級は国、県で1人に対して1人が付くということが決まっているので専門性の高い先生が配置される。幼稚園は、そこについても課題になっていると思う。

委員

幼稚園の新制度が始まり10年位になるが、幼稚園は元々、私学助成として始まり、県内90園くらいあるが、その95%位が新制度に移行している。教育よりサービス重視の親が多く、核家族化が進んだことで、子育て支援の方にシフトしてきている。山形市の中でも、2つが移行するとほぼ新制度に移行となる。

議長

他に質問等がなければ、利用定員の設定等は妥当であると判断してよろしいか。

全員

よい。

議長

当会議における意見として、「今回の利用定員の設定は妥当である」ということにする。

4 その他

委員の改選について事務局より説明。

(主な質疑等) なし

5 閉会